

賛助会員訪問記

株式会社東芝 セミコンダクター&ストレージ社 訪問

平成 26 年 3 月 20 日（木）10 時～11 時 30 分、東芝研究開発センターを、高野良紀総務理事、押木満雅事務局長および杉村比登美事務局職員の三名で訪問いたしました。竹尾昭彦先行技術開発部グループ長、彦坂和志事業企画部主務および及川壮一技術開発部主務、北沢百合技術企画部参事の四名で対応していただきました。北沢氏の司会により竹尾氏から株式会社東芝 セミコンダクター&ストレージ社の説明がありました。東芝はエネルギー、ストレージおよびヘルスケアを事業の三本柱としています。平成 23 年には、半導体部門とハードディスク装置（HDD）部門を統合したセミコンダクター&ストレージ社を設立し、ストレージ分野に注力しています。HDD 部門では世界に先駆けて平成 17 年に垂直磁気記録技術を採用した磁気ディスク装置を商用化し、また平成 21 年に富士通ストレージプロダクト事業部門を吸収し、現在では国内唯一の磁気ディスク装置ベンダーとして世界を相手に健闘している会社とのことでした。ディスク装置の開発設計は新杉田にある東芝横浜事業所を中心としていますが、磁性材料に係る研究開発は川崎の研究開発センター内の設備を用いてすすめているとのこと。彦坂氏および及川氏より平成 25 年度新技術・新製品賞で表彰された垂直磁気記録媒体開発にまつわるお話を伺いました。彦坂氏は手動スパッタ装置を用い幅広い条件で磁気記録用磁性薄膜の成膜を行い、磁気特性評価、構造解析や R/W 評価を行った結果、磁性薄膜の下地膜、磁性粒径や粒界の重要性に着目し酸化物グラニューラ媒体の研究開発を進めたとのこと。その経過の中で及川氏の提案による下地膜を採用し良好な垂直磁気記録媒体を製作する事が可能となり、商用化に結び付ける事が出来たなどのお話しでした。お話しの中で、東芝は部品量産工場を持っていないかわりに、少人数で量産にまつわる問題にあまり煩わされずに独自の研究開発を進める事が出来る、研究開発は研究所および事業部で位相を合わせて行っているなど、東芝での研究開発事情を有効に活用している状況を垣間見る事が出来たように思いました。

磁気記録技術の将来が混沌としている現在、いち早く将来磁気記録技術を完成されて更なる飛躍を遂げられるよう祈念しながら研究開発センターを後にしました。（押木 記）



東芝研究開発センター



取材風景